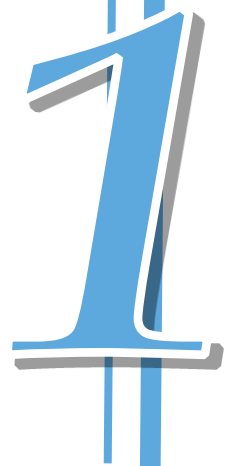


看護学科シラバス

2025 1年生

仙台赤門短期大学



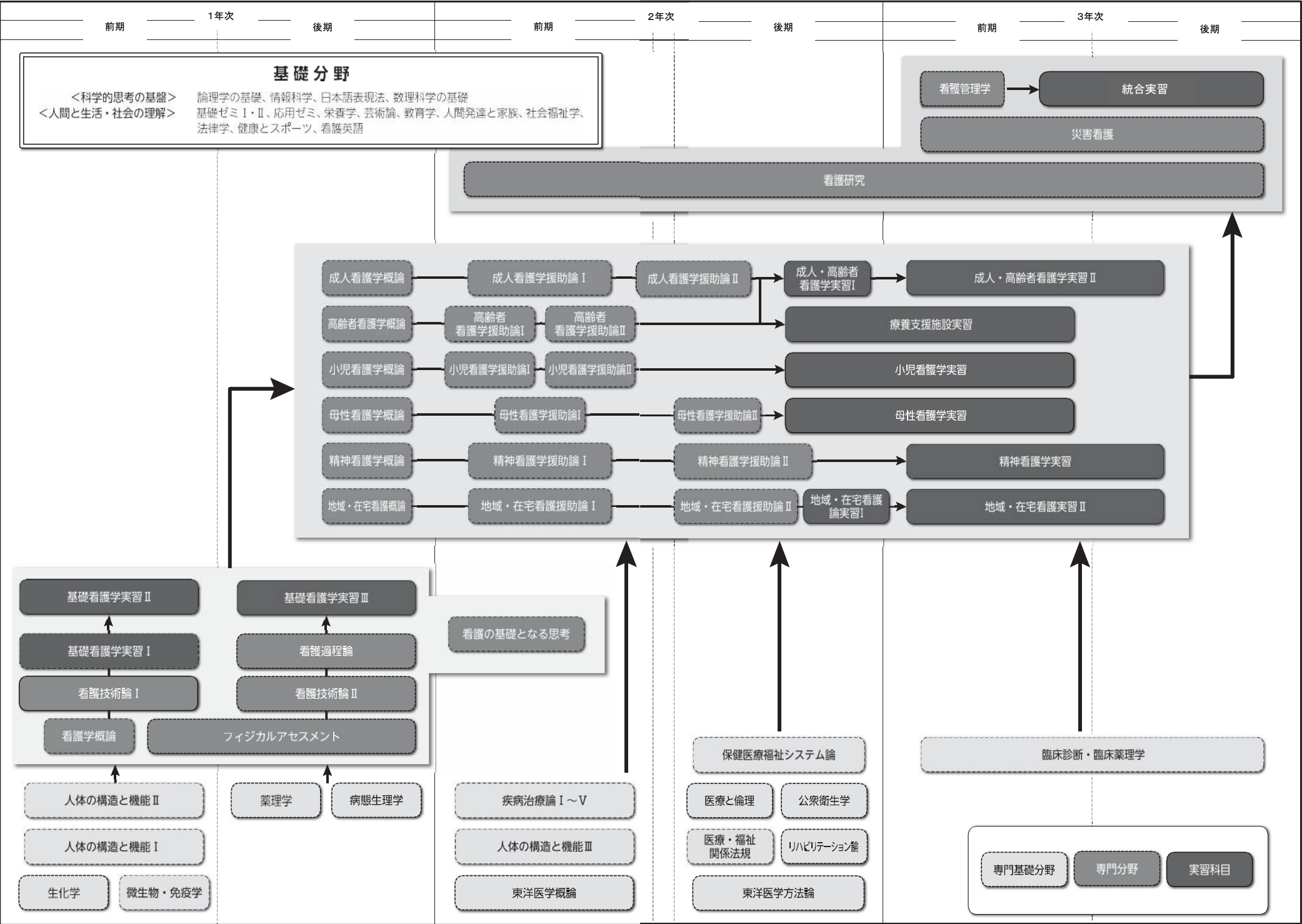
目 次

基礎分野	専門分野
数理科学の基礎 5	看護学概論 23
情報科学 6	看護技術論Ⅰ 25
日本語表現法 7	看護過程論 27
論理学の基礎 8	看護技術論Ⅱ 28
基礎ゼミⅠ 9	フィジカルアセスメント 30
人間発達と家族 11	地域・在宅看護概論 32
社会福祉学 12	成人看護学概論 33
栄養学 13	高齢者看護学概論 34
健康とスポーツ 14	小児看護学概論 35
	母性看護学概論 36
	精神看護学概論 37
専門基礎分野	(臨地実習)
人体の構造と機能Ⅰ 15	基礎看護学実習Ⅰ 38
人体の構造と機能Ⅱ 17	基礎看護学実習Ⅱ 40
生化学..... 19	基礎看護学実習Ⅲ 42
微生物・免疫学..... 20	
薬理学..... 21	
病態生理学..... 22	

※ 巻末… 専任教員・オフィスアワー、並びに
非常勤講師一覧(1年次担当)

授業科目及び単位数

		第1年次				第2年次				第3年次			
授業科目		前 期	単 位	後 期	単 位	前 期	単 位	後 期	単 位	前 期	単 位	後 期	単 位
基礎分野	科学的思考の基盤	数理学の基礎	1	論理学の基礎	1								
		情報科学	1										
		日本語表現法	1										
	人間の生活・社会の理解	基礎ゼミⅠ			1	基礎ゼミⅡ			1	応用ゼミ			1
		人間発達と家族	1			芸術論(選択)	1			看護英語			1
		社会福祉学	1			法律学(選択)							
		栄養学	1			教育学	1						
				健康とスポーツ	1								
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体の構造と機能Ⅰ	2			人体の構造と機能Ⅲ	1						
		人体の構造と機能Ⅱ	2										
	疾病の成り立ちと回復の促進	生化学	1	薬理学	1	疾病治療論Ⅰ	1			臨床診断・臨床薬理学			1
		微生物・免疫学	1	病態生理学	1	疾病治療論Ⅱ	1						
						疾病治療論Ⅲ	1						
						疾病治療論Ⅳ	1						
						疾病治療論Ⅴ	1						
								リハビリテーション論	1				
	健康支援と社会保障制度					東洋医学概論	1	東洋医学方法論	1				
								公衆衛生学	1				
								保健医療福祉システム論	1				
								医療と倫理	1				
								医療・福祉関係法規	1				
専門分野	基礎看護学	看護学概論	2	看護過程論	2	看護の基礎となる思考	1						
		看護技術論Ⅰ	2	看護技術論Ⅱ	2								
		フィジカルアセスメント			2								
	地域・在宅看護			地域・在宅看護概論	2	地域・在宅看護援助論Ⅰ	2	地域・在宅看護援助論Ⅱ	2				
	成人看護学			成人看護学概論	2	成人看護学援助論Ⅰ	2						
						成人看護学援助論Ⅱ			2				
	高齢者看護学			高齢者看護学概論	1	高齢者看護学援助論Ⅰ	1						
						高齢者看護学援助論Ⅱ	2						
	小児看護学			小児看護学概論	1	小児看護学援助論Ⅰ	1						
						小児看護学援助論Ⅱ	2						
	母性看護学			母性看護学概論	1	母性看護学援助論Ⅰ	1	母性看護学援助論Ⅱ	2				
	精神看護学			精神看護学概論	1	精神看護学援助論Ⅰ	2	精神看護学援助論Ⅱ	1				
	看護の統合と実践									看護管理学	1		
						看護研究							2
										災害看護			1
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	基礎看護学実習Ⅲ	2			地域・在宅看護実習Ⅰ	1	地域・在宅看護実習Ⅱ			2
		基礎看護学実習Ⅱ	1					成人・高齢者看護学実習Ⅰ	2	成人・高齢者看護学実習Ⅱ			3
								療養支援施設実習			2		
								小児看護学実習			2		
								母性看護学実習			2		
										精神看護学実習			2
										統合実習			3



科目の位置付け ナンバリングについて

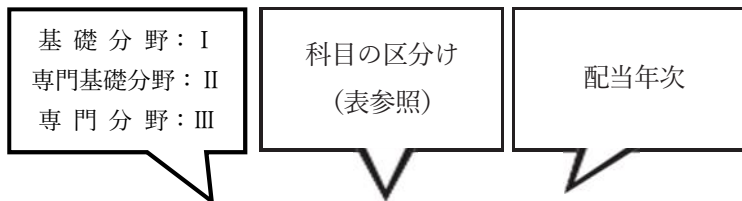
教育の質に係る客観的指標として、文部科学省より

○卒業認定・学位授与の方針と、それぞれの授業科目の関連

○授業科目の教育課程内の位置付けや水準を表す数字や記号（ナンバリング含む）をシラバスに記載することが求められています。

各科目のナンバリングの見方については下記を参照してください。

（例） 1 年生「数理科学の基礎」： I - 1 - 1 - 1, 4



I - 1 - 1 - 1, 4

学修成果（到達目標）

※複数当てはまる場合、すべて記述

1. 看護に必要な基礎的知識・技術を対象に合わせて実践できる
2. 看護の対象者の生命・尊厳・人権を尊重した人間関係を構築できる
3. 看護師の独自性を発揮し、他職種と連携・協働できる
4. 専門職業人として、自己実現に向けて継続して学習する基盤がもてる
5. 地域社会の保険・医療・福祉の状況を把握し、その質の向上を目指すことができる

2025年度科目一覧

分野	授業科目		配当 年次	学修 成果	位置付け記号
基礎分野 I	科学的思考の基盤 1	数理科学の基礎	1	1,4	I－1－1－1,4
		情報科学	1	1,4	I－1－1－1,4
		日本語表現法	1	1,4	I－1－1－1,4
		論理学の基礎	1	1,4	I－1－1－1,4
	人間の生活・社会の理解 2	基礎ゼミ I	1	1,2,3,4,5	I－2－1－1,2,3,4,5
		人間発達と家族	1	1,2,4	I－2－1－1,2,4
		社会福祉学	1	1,4	I－2－1－1,4
		栄養学	1	1,4	I－2－1－1,4
		健康とスポーツ	1	1,4	I－2－1－1,4
		基礎ゼミ II	2	2,3,4	I－2－2－2,3,4
		芸術論（選択）	2	2,4	I－2－2－2,4
		法律学（選択）	2	2,4	I－2－2－2,4
		教育学	2	2,4	I－2－2－2,4
		応用ゼミ	3	2,3,4,5	I－2－3－2,3,4,5
		看護英語	3	1,4	I－2－3－1,4
	人体の構造と機能 1	人体の構造と機能 I	1	1,4	II－1－1－1,4
		人体の構造と機能 II	1	1,4	II－1－1－1,4
		人体の構造と機能 III	2	1,4	II－1－2－1,4
専門基礎分野 II	疾病の成り立ちと回復の促進 2	生化学	1	1,4	II－2－1－1,4
		微生物・免疫学	1	1,4	II－2－1－1,4
		薬理学	1	1,4	II－2－1－1,4
		病態生理学	1	1,4	II－2－1－1,4
		疾病治療論 I	2	1,4	II－2－2－1,4
		疾病治療論 II	2	1,4	II－2－2－1,4
		疾病治療論 III	2	1,4	II－2－2－1,4
		疾病治療論 IV	2	1,4	II－2－2－1,4
		疾病治療論 V	2	1,4	II－2－2－1,4
		リハビリテーション論	2	1,4	II－2－2－1,4
		臨床診断・臨床薬理学	3	1,4	II－2－3－1,4
	健康支援と社会保障制度 3	東洋医学概論	2	1,4	II－3－2－1,4
		東洋医学方法論	2	1,4	II－3－2－1,4
		公衆衛生学	2	1,4,5	II－3－2－1,4,5
		保健医療福祉システム論	2	1,4	II－3－2－1,4
		医療と倫理	2	1,2,4	II－3－2－1,2,4
		医療・福祉関係法規	2	1,4	II－3－2－1,4
分野	授業科目		配当 年次	学修 成果	位置付け記号
専門分野 III	基礎看護学 1	看護学概論	1	1,2,3,4,5	III－1－1－1,2,3,4,5
		看護技術論 I	1	1,2,3,4	III－1－1－1,2,3,4
		フィジカルアセスメント	1	1,2,3,4	III－1－1－1,2,3,4
		看護過程論	1	1,2,3,4	III－1－1－1,2,3,4
		看護技術論 II	1	1,2,3,4	III－1－1－1,2,3,4
		看護の基礎となる思考	2	1,2,4	III－1－2－1,2,4
	地域・在宅看護 2	地域・在宅看護概論	2	1,4,5	III－2－1－1,4,5
		地域・在宅看護援助論 I	2	1,2,3,4,5	III－2－2－1,2,3,4,5
		地域・在宅看護援助論 II	2	1,2,3,4,5	III－2－2－1,2,3,4,5
	成人看護学 3	成人看護学概論	1	1,4,5	III－3－1－1,4,5
		成人看護学援助論 I	2	1,2,3,4,5	III－3－2－1,2,3,4,5
		成人看護学援助論 II	2	1,2,3,4,5	III－3－2－1,2,3,4,5
	高齢者看護学 4	高齢者看護学概論	1	1,2,3,4,5	III－4－1－1,2,3,4,5
		高齢者看護学援助論 I	2	1,2,3,4,5	III－4－2－1,2,3,4,5
		高齢者看護学援助論 II	2	1,2,3,4,5	III－4－2－1,2,3,4,5
	小児看護学 5	小児看護学概論	1	2,4,5	III－5－1－2,4,5
		小児看護学援助論 I	2	1,2,3,4,5	III－5－2－1,2,3,4,5
		小児看護学援助論 II	2	1,2,3,4,5	III－5－2－1,2,3,4,5
	母性看護学 6	母性看護学概論	1	1,2,3,4,5	III－6－1－1,2,3,4,5
		母性看護学援助論 I	2	1,2,3,4,5	III－6－2－1,2,3,4,5
		母性看護学援助論 II	2	1,2,3,4,5	III－6－2－1,2,3,4,5
	精神看護学 7	精神看護学概論	1	1,2,3,4,5	III－7－1－1,2,3,4,5
		精神看護学援助論 I	2	1,2,3,4,5	III－7－2－1,2,3,4,5
		精神看護学援助論 II	2	1,2,3,4,5	III－7－2－1,2,3,4,5
	看護の統合と実践 8	看護研究	2・3	4,5	III－8－2・3－4,5
		看護管理学	3	2,3,4	III－8－3－2,3,4
		災害看護	3	1,2,3,4	III－8－3－1,2,3,4
	臨地実習 9	基礎看護学実習 I	1	1,2,3,4,5	III－9－1－1,2,3,4,5
		基礎看護学実習 II	1	1,2,3,4	III－9－1－1,2,3,4
		基礎看護学実習 III	1	1,2,3,4	III－9－1－1,2,3,4
		地域・在宅看護実習 I	2	1,2,3,4,5	III－9－2－1,2,3,4,5
		成人・高齢者看護学実習 I	2	1,2,3,4,5	III－9－2－1,2,3,4,5
		療養支援施設実習	2・3	1,2,3,4,5	III－9－2・3－1,2,3,4,5
		小児看護学実習	2・3	1,2,3,4,5	III－9－2・3－1,2,3,4,5
		母性看護学実習	2・3	1,2,3,4,5	III－9－2・3－1,2,3,4,5
		地域・在宅看護実習 II	3	1,2,3,4,5	III－9－3－1,2,3,4,5
		成人・高齢者看護学実習 II	3	1,2,3,4,5	III－9－3－1,2,3,4,5
		精神看護学実習	3	1,2,3,4,5	III－9－3－1,2,3,4,5
		統合実習	3	1,2,3,4,5	III－9－3－1,2,3,4,5

授 業 科 目 名	数理科学の基礎	科目の位置付け	I－1－1－1,4
単 位 数	1単位	時 間 数	30時間
履 修 年 次	1年次 前期	必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	樋口 秀男	講 義 形 式	講義
授業の概要・目的	人を見る看護学は自然科学を基礎としています。さらにその自然科学の共通の基礎は、数学と物理学です。例えば、血圧の圧とはなんだろうか。レントゲン（X線）はなぜ体の中を撮影できるのだろうか。これらに答えることができるのが物理学です。講義で、物理学に必要な数学と生理学と関連させながら物理学の基礎を理解する。		
授業のキーワード	数学の基礎、物理学、法則、生理学		
授業の到達目標	Ⅰ 物理学の基礎を理解する。 Ⅱ 物理学と生理学の関連を理解する。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	科学と看護 物理量	
	2	グラフと関数	
	3	運動1	
	4	運動2	
	5	力1	
	6	力2	
	7	温度と熱1	
	8	温度と熱2	
	9	波の運動1	
	10	波の運動2	
	11	音と光 1	
	12	音と光 2	
	13	放射線 1	
	14	放射線 2	
	15	医療イメージング（光、電気、放射線など）	
教 科 書	『PT・OTゼロからの物理学』 望月久ら 羊土社		
参考文献 その他資料	系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕 解剖生理学 医学書院		
成績評価方法	小テスト（ほぼ毎週）、中間テスト、筆記試験結果を総合評価する。		
履 修 条 件	特になし		
備 考	次回の小テストのテスト範囲の問題を毎週予習すること（平均1時間程度）		

授 業 科 目 名	情報科学		科目の位置付け	I－1－1－1,4
単 位 数	1単位		時 間 数	30時間
履 修 年 次	1年次 前期		必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	樋口 秀男		講 義 形 式	講義
授業の概要・目的	人を見る看護学は自然科学を基礎としています。さらにその自然科学の共通の基礎は、数学です。薬の量は、体重や病気の重さによって変化し、計算で求めます。血液検査に書かれている正常値には幅があり、これは統計学を用いて異常でない範囲を割り出します。講義では、数学の基礎の後に統計学を学んでいきます。			
授業のキーワード	数学、統計学、情報			
授業の到達目標	Ⅰ 看護で必要な数学を使いこなせるようになること。 Ⅱ 統計学で何が理解できるかを理解すること。			
授 業 計 画	回	内 容		
	1	看護と数学との関係		
	2	データーの種類1		
	3	データーの種類2		
	4	表と図		
	5	確率分布 1		
	6	確率分布 2		
	7	相関		
	8	回帰		
	9	推定と検定 1		
	10	推定と検定 2		
	11	t 検定 1		
	12	t 検定 2		
	13	t 検定 3		
	14	統計学を医学に生かそう 1		
	15	統計学を医学に生かそう 2		
教 科 書	『ていねいな保健統計学』 第2版 白戸 亮吉（著） 羊土社			
参考文献 その他資料	系統看護学講座 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院			
成績評価方法	小テスト（ほぼ毎週）、筆記試験結果、レポート等を総合評価する。			
履 修 条 件	特になし			
備 考	次回の小テストのテスト範囲の問題を予習すること（平均1時間程度）。			

授 業 科 目 名	日本語表現法	科目の位置付け	I－1－1－1,4
単 位 数	1単位	時 間 数	30時間
履 修 年 次	1年次 前期	必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	蛸崎 暁子	講 義 形 式	講義
授業の概要・目的	将来、看護の現場において、文章を書く必要性に迫られることを念頭に置き、論理的な文章表現ができるよう、様々な角度から日本語の総合的な知識を深め、実践的な力を身につけていく。		
授業のキーワード	「日本語力は、全ての学びの基盤であり、生きる力そのものである。」		
授業の到達目標	Ⅰ 敬語、文法、語彙、言葉の意味、表記、漢字など日本語の総合的な能力を身につける。 Ⅱ 人間関係構築力を高めるためにも読解力・表現力を養う。 Ⅲ 日常生活においても、言葉に関心を持ち、積極的に学ぶ姿勢を養う。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	日本語を学ぶ意義・「レポートの書き方、文章読解・表現」①	
	2	「レポートの書き方、文章読解・表現」②・敬語の基本	
	3	敬語の種類と使い分け	
	4	注意すべき敬語、様々な敬語表現	
	5	文法のしくみ、品詞	
	6	ら抜き言葉、言葉の係り受け	
	7	接続後、指示語と文章	
	8	語彙・言葉の意味（類義語、対義語）他	
	9	動詞の自他、視点	
	10	文体（話し言葉、書き言葉）	
	11	コロケーション①	
	12	コロケーション②	
	13	漢字（熟語の構成、部首、音訓）	
	14	漢字（同音異義語、同訓漢字、四字熟語）	
	15	日本語表現法総合	
教 科 書	「ステップアップ日本語講座・中級」 東京書籍 「スキルアップ！日本語力」 東京書籍		
参考文献・その他資料	「日本語検定・必勝単語帳」 東京書籍 「看護系学生のための日本語トレーニング」 三省堂 必要に応じて適宜、補助プリント使用		
成績評価方法	前期試験結果50%、授業態度（毎回の確認テストを含む）50%の合計で評価する。		
履 修 条 件	特になし		
備 考	1.教科書、配布資料の徹底理解を図るためにも、事前に授業で扱う単元内容に目を通し、予習（1時間程度）をしておくこと。 2.授業内容の理解度を確保する意味で、毎回確認テストを実施するので、復習（1時間程度）する姿勢を定着させること。確認テストは採点し、返却の際、解説、講評を行う。		

授 業 科 目 名	論理学の基礎	科目の位置付け	I－1－1－1,4
単 位 数	1単位	時 間 数	30時間
履 修 年 次	1年次 後期	必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	安藤 恵子	講 義 形 式	講義
授業の概要・目的	あらゆる場面において看護師には論理的思考力と論理的表現力が求められる。本講義では種々の分野の話題を論理的に思考する。この一連の過程において論理的に文章読解・作成を行えるようにする。医療安全に必要な計算の重要性を理解し、看護における計算スキルを学ぶ。		
授業のキーワード	論理、接続表現、議論の流れ、文章読解、文章作成、計算		
授業の到達目標	論理的思考を身に付け、接続表現に注意して文章の読解・作成を行えるようにする。議論の流れを意識する力を養う。看護業務に必要な正確な数値を算出できるようにする。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	ガイダンス 論理・論証とは何か	
	2	接続表現－順接と逆接	
	3	接続表現の練習問題	
	4	論理的に考える方法－帰納的論証	
	5	帰納的論証の練習問題	
	6	論証を図で示す－単純論証、結合論証、合流論証	
	7	論証図による文章読解	
	8	論理的に書く－一文一義とパラグラフ	
	9	パラグラフ構造による文章作成	
	10	パラグラフ間の論理的関係性	
	11	論理的に読むための4つのステップ	
	12	論理的な読み方の実践	
	13	看護に関連する計算問題の基礎	
	14	看護に関連する計算問題の応用	
15	全体のおさらい		
教 科 書	看護学生が身に付けたい論理的に書く・読むスキル（医学書院）		
参考文献・その他資料	他随時指示する。		
成績評価方法	定期試験		
履 修 条 件	特になし		
備 考	講義の復習（1時間程度）を行うこと。		

授 業 科 目 名	基礎ゼミⅠ	科目の位置付け	Ⅰ－2－1－1,2,3,4,5	
単 位 数	1単位	時 間 数	30時間	
履 修 年 次	1年次 通年	必 修 ・ 選 択	必修	
担 当 教 員	佐藤浩一郎、小野八千代、熊田真紀子、佐藤文枝、木島祐子、佐藤大介（全員実務経験あり）		講 義 形 式	講義
授業の概要・目的	中等教育から高等教育への学修環境の変化にスムーズに移行することを目指す。受動的な学修スタイルから自発的・協働的なスタイルへ転換できるようにする。そして看護職に必要な姿勢・態度について学びを深める。			
授業のキーワード	大学生生活、情報リテラシー、協働学習、接遇、看護職			
授業の到達目標	Ⅰ 短期大学で学ぶための能動的な学修態度を養い、基礎的な学修能力を習得することができる（読む・書く・話す・聞く・考える）。 Ⅱ 情報リテラシー（正しく情報を読み解き、正しく情報を発信できること）を高め、効果的な学修とすることができる。 Ⅲ 学生間の交流を通し自己理解・他者理解を深め自身の目的志向を高めることができる。また、大学での学修・生活スタイルの確立に向け、生じた問題に対し解決方法をみつけることができる。 Ⅳ 課題学修を通し、他者との関係を築きながら自ら学ぶための基礎的態度を養うことができる。 Ⅴ 看護職になるものとして、信頼を得るための接遇が実践できる。			
授 業 計 画	回	内 容		
	1	新入生オリエンテーション：基礎ゼミⅠガイダンス・情報リテラシー・シラバスと学生便覧の活用方法・学修年間計画の立案・同級生との交流（自己紹介・アイスブレイク）。		
	2	大学生生活の過ごし方Ⅰ〈学生生活について〉：注意が必要なこと・心身の健康管理・仲間との交流をとおり大学生生活に向けての不安、心配を解決する方法を学ぶ。		
	3	大学生生活の過ごし方Ⅱ〈本学の特徴〉看護学教育や短期大学の特徴を知り、学修習慣を身に着けるための工夫や方法を学ぶ（課題提出や少人数教育）。		
	4	大学生生活の過ごし方Ⅲ〈上級生との交流〉球技大会や体育祭・赤門祭等の行事を通して、上級生との交流を持ち、大学での有意義な生活方法や問題を解決する方法を学ぶ。		
	5	大学生生活の過ごし方Ⅳ〈教員との面談〉教員との個別面談をとおり大学での学修方法・問題を解決するための方法について学ぶ。		
	6	大学生生活の過ごし方Ⅴ〈教員との面談〉教員との個別面談をとおり大学での学修方法・問題を解決するための方法について学ぶ。		
	7	レポートの作成方法（講義）レポート作成について講義を受け、レポートの種類、書く手順、書式、また文献検索法についても学ぶ。		
	8	グループワークの方法〈講義と演習〉グループワークの意義と方法を学び、実際に学生同士でテーマを決めて実践する。自分の考えを伝え、相手の考えを聴き、グループの考えをまとめる。		
	9	カンファレンスの方法〈講義と演習〉カンファレンスの意義と方法を学び、実際に学生同士でテーマを決めて実践する。グループワークとの違いも知る。		

授 業 計 画	10	大学生活の過ごし方Ⅵ〈外部講師による講義〉トピック的な内容（例：アルバイト感覚で犯罪に加担させない取組み・デートDV・詐欺にあわないために・接遇等）
	11	医療現場で使う英会話 その1
	12	医療現場で使う英会話 その2
	13	大学生活の過ごし方Ⅶ〈学生生活について② 外部講師による講義〉 注意が必要なこと・心身の健康管理
	14	大学生活の過ごし方Ⅷ〈卒業生との交流〉学生時代の過ごし方や現在の生活についての情報を得る
	15	課題学修Ⅰ：個々で課題をみつけ、課題解決方法を見出す テーマを設定し、文献レビューを通してレポートを作成する
教 科 書	特になし	
参考文献 その他資料	必要に応じてゼミにて提示する。	
成績評価方法	成績評価は、授業準備・課題探求・発表等に向けた実践活動、参加態度、試験（70%）、演習、課題レポート（30%）により評価する。総合して60%以上で単位を与える。	
履 修 条 件	特になし	
備 考		

授 業 科 目 名	人間発達と家族	科目の位置付け	I－2－1－1,2,4
単 位 数	1単位	時 間 数	30時間
履 修 年 次	1年次前期	必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	野崎 義和	講 義 形 式	講義
授業の概要・目的	人間の身体的・心理的・社会的発達を包括的にとらえ、発達過程に伴って生じる変化や発達課題について学習する。そして、家族システムの中で個人の生涯を理解するとともに、家族の機能や役割、ひいては患者の健康を保つために援助者がどのようにかかわっていけばよいかについて考える。		
授業のキーワード	健康の概念、発達段階、発達課題、心の問題、家族システム論		
授業の到達目標	人間の発達と発達課題、その中で起こる様々な心理的危機に関する知識を獲得する。援助者が患者と家族をどのように理解し、また協同していくことができるかについて説明することができる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	感覚・知覚	
	2	記憶と思考・言語	
	3	知能	
	4	学習と動機づけ	
	5	性格とパーソナリティ	
	6	発達の定義と発達段階・発達課題	
	7	乳幼児の発達	
	8	児童・青年の発達	
	9	成人・高齢者の発達	
	10	心の問題と心理療法	
	11	医療・看護と心理	
	12	家族機能と現代家族の様相・課題	
	13	家族構造の理解	
	14	家族看護を支えると理論と介入法	
15	家族看護展開の方法		
教 科 書	系統看護学講座 心理学 医学書院 系統看護学講座 家族看護学 医学書院		
参考文献 その他資料	必要に応じて、講義資料を配信する。		
成績評価方法	定期試験による。		
履 修 条 件	特になし		
備 考	予習：毎回の授業前に、教科書の関連部分を熟読しておく。（30分程度） 復習：配信資料や教科書で得た知識の確認をする。（30分程度） 毎回の授業後に、感想や質問等をカードに書いて提出してもらいます。質問等への回答は、次回以降の授業時に口頭またはプリントでフィードバックします。		

授 業 科 目 名	社会福祉学	科目の位置付け	I－2－1－1,4
単 位 数	1 単位	時 間 数	30時間
履 修 年 次	1 年次 前期	必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	横山 英史	講 義 形 式	講義
授業の概要・目的	社会福祉の概念や歴史、基本的考え方（思想）、諸分野、及び福祉実践の援助・支援について説明し、求められる社会福祉の在り方を考えていく。		
授業のキーワード	社会福祉の概念、福祉制度の存在理由、対象と支援の在り方		
授業の到達目標	Ⅰ 社会福祉分野への興味・関心が深まる。 Ⅱ 看護実践及び看護学と福祉実践、社会福祉学との共通性を踏まえ、自分なりの他者や社会への向き合い方について説明できる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	本講義の概要と教科書等の説明、並びに社会福祉の概要について	
	2	現代社会における社会福祉の意義、理念	
	3	社会福祉の歴史①総論 慈善事業～社会事業、厚生事業	
	4	社会福祉の歴史②社会福祉の成立	
	5	社会保障制度の概要	
	6	社会福祉の諸分野①児童家庭福祉	
	7	社会福祉の諸分野②障害者福祉（1）	
	8	社会福祉の諸分野③障害者福祉（2）高齢者保健福祉（1 高齢者の実態）	
	9	社会福祉の諸分野④高齢者保健福祉（2 介護保険制度）	
	10	社会福祉の諸分野⑤低所得者福祉	
	11	社会福祉の諸分野⑥地域福祉（1）	
	12	社会福祉の諸分野⑦地域福祉（2）医療福祉	
	13	社会福祉援助・支援の方法①ソーシャルワークの原則	
	14	社会福祉援助・支援の方法②ソーシャルワークの展開過程	
15	社会福祉の課題		
教 科 書	新体系看護学全書 社会福祉/健康支援と社会保障制度③ メヂカルフレンド社		
参考文献 その他資料			
成績評価方法	原則、筆記試験80%、平常点20%で評価します。（問題等については事前に説明）		
履 修 条 件	特になし		
備 考	教科書の各単元の内容を良く理解しておくことー予習1時間程度ー。 また随時レポートを実施し、評価、コメントを行いますー復習1時間程度ー。 平常点はレポート、講義への参加度等に基づき評価します。		

授 業 科 目 名	栄養学	科目の位置付け	I-2-1-1,4
単 位 数	1 単位	時 間 数	30時間
履 修 年 次	1 年次 前期	必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	菅原 詩緒理	講 義 形 式	講義
授業の概要目的	社会環境の変化により、不規則な生活習慣により引き起こされる生活習慣病等について「食」との関連を学び、人を対象にする職業に就くことを視野に入れ、自身の健康も含めて様々な視点から健康を科学する。また、栄養に関わる知識を備え、疾病と栄養との関連性を理解し、それをもとに実践力を養う。		
授業のキーワード	生活習慣病、食と健康、栄養学、臨床栄養学		
授業の到達・目標	自身の食事管理を考え健康を科学することができる。疾病予防の観点から健康を科学することができる。生命の維持に必要な栄養素の働きとバランスの取れた栄養摂取についての知識を習得することができる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	ガイダンス シラバスの説明、人間栄養学と看護	
	2	食事管理の視点から健康を科学する…①	
	3	食事管理の視点から健康を科学する…②	
	4	ライフステージの視点から健康を科学する	
	5	消化と吸収、栄養素の体内代謝、エネルギー代謝	
	6	栄養素の種類と働き…①	
	7	栄養素の種類と働き…②	
	8	疾病予防の観点から健康を科学する…①	
	9	疾病予防の観点から健康を科学する…②	
	10	疾病予防の観点から健康を科学する…③	
	11	栄養ケアプロセスに関して	
	12	栄養状態の評価と判定	
	13	栄養管理…①	
	14	栄養管理…②	
15	まとめ		
教 科 書	『食と健康の科学』 建帛社 ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ちと回復の促進④ 臨床栄養学 メディカ出版		
参考文献 その他資料	臨床栄養学疾患別の栄養管理プロセスを正しく理解するために化学同人必要に応じて資料を配信します。		
成績評価方法	筆記試験結果80%、授業の受講態度20%により評価します。		
履 修 条 件	特になし		
備 考	履修にあたっての注意。教科書を事前にしっかり熟読しておく事。授業ごとにレポートを課す場合がある。その内容については評価の対象とする（予習・復習共に1コマ当たり1時間程度）。評価対象のレポートはその度に解説を加えてフィードバックする。		

授 業 科 目 名	健康とスポーツ	科目の位置付け	I-2-1-1,4
単 位 数	1単位	時 間 数	30時間
履 修 年 次	1年次 後期	必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	星 由華里	講 義 形 式	講義
授業の概要・目的	健康維持に必要な基本知識を習得し、健全な身体づくりを目指す。身体活動の指針を念頭に置き、環境や生活習慣が心身の健康や体力を脅かす諸問題について考え、体を動かす事の重要性について科学的に理解できるように学習をする。		
授業のキーワード	セルフモニタリング、気付き、疲労予防、自己管理能力、体力強化		
授業の到達目標	I 自己の生活習慣を振り返り、健康を維持する為に何が必要か気付くことができる II 体を動かす事が心身の健康とどの様に関係するのか実感し、理解できる III 他者と交流する経験を通し、役割分担を学び、支え合う喜びを知る事ができる		
授 業 計 画	回	内 容	サブテーマ
	1	体力測定（筋力,筋持久力,柔軟性,敏捷性）	行動変容ステージ調査①
	2	体力測定（全身持久力, 心拍数の変化）	測定結果の分析と考察
	3	ストレッチング① ボール運動①	概日リズム・神経伝達物質
	4	ストレッチング② ボール運動②	ストレッチングの種類と役割
	5	ストレッチング③ ラケット・ボール運動	良い姿勢（重心線と抗重力筋）
	6	ストレッチング④ ラケット・ボール運動	筋原線維・筋節の働き
	7	レジスタンス・リズム運動① 集団運動	疲労と生活習慣の関係を考える
	8	レジスタンス・リズム運動② セルフケア①	行動変容ステージ調査②
	9	レジスタンス・リズム運動③ セルフケア②	関節の仕組みと働き、骨と筋肉の役割
	10	実技課題演習	支持基底面と重心バランス
	11	実技課題評価日	運動習慣による心身の変化
	12	ボール・ラケット・集団運動まとめ	行動変容ステージ調査③
	13	〔講義〕事例：脳梗塞とリハビリ過程	災害時の疾病、生活習慣によるメタボの危険性と疾患の関係
	14	〔講義〕事例：前十字靱帯・半月板損傷等の怪我・疾病時における運動の役割	ロコモ・フレイルリスクと予防策
	15	授業の総括（試験対策）	
教 科 書	「世界一伸びるストレッチ」サンマーク出版		
参考文献 其他資料	「プロメテウス解剖学コア アトラス 第2版」 医学書院他 授業の内容及び学生の要望に応じて、適宜紹介する。		
成績評価方法	授業態度と課題（プリント・実技）：50% 筆記試験結果：50%を合計し評価		
履 修 条 件	特になし		
備 考	・準備物：運動着、運動靴、水分補給飲料（上着着用可） ・アクセサリを外し、髪の毛の長い人は束ねて参加する事 ・すき間時間を活用し運動習慣（一週間で計1時間以上）を身に付け実技課題（約3分）がクリアできる身体づくりを積み重ねること 提出された課題や記録表（自己考察）は解説・添削し返却する		

授 業 科 目 名	人体の構造と機能 I	科目の位置付け	II - 1 - 1 - 1,4
単 位 数	2単位	時 間 数	60時間
履 修 年 次	1 年次 前期	必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	笹野 泰之、柴原 茂樹	講 義 形 式	講義
授業の概要・目的	<笹野 泰之> 人体の基本構造について学び、また、食物の消化・吸収を担う消化器系、呼吸を営む呼吸器系および尿をつくって体内の不要な代謝産物を排泄する泌尿器系の構造と機能について学ぶ。 <柴原 茂樹> 解剖生理学の基礎として素材から見た人体、すなわち人体を構成する主な分子、細胞、組織、器官、人体について理解することを目的とする。 脳・神経・感覚器により外界の情報を取り入れ、反応の指令を下すが、どのようなメカニズムでそのようなことが達成されるかを理解し、神経情報の伝達、中枢神経系、末梢神経系の成り立ち、さらに中枢神経系の部域化、部域ごとの機能について理解できることを目的とする。感覚器についてはその基本構造と機能、中枢神経系とのつながり等について理解することを目的とする。		
授業のキーワード	人体の構造、消化管、膵臓、肝臓、胆嚢、気道、肺、腎臓、尿管、膀胱、尿道、中枢神経系、末梢神経系、自律神経系、脳、脊髄、視覚、聴覚、嗅覚、味覚、痛覚		
授業の到達目標	I 人体の基本的な構造と機能について理解できる。 II 消化器・呼吸器・泌尿器を構成する細胞・組織・器官の構造と機能について理解できる。 III 神経系の構造と機能、大脳・小脳等の脳の区分、さらに大脳の中での領域化と領域ごとの働きについて理解できる。 IV 神経情報の伝達メカニズムが理解できる。 V 感覚の種類と感覚器の構造、機能を理解できる。		
授 業 計 画	回	内 容	担当教員
	1	人体の構造 総論 1 (構造から見た人体)	笹野
	2	人体の構造 総論 2 (人体のさまざまな器官)	笹野
	3	消化器系総論	笹野
	4	消化管の構造と機能 1	笹野
	5	消化管の構造と機能 2	笹野
	6	消化管の構造と機能 3	笹野
	7	膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 1	笹野
	8	膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 2	笹野
	9	呼吸器系総論	笹野
	10	気道の構造と機能	笹野
	11	肺の構造と機能 1	笹野
	12	肺の構造と機能 2	笹野

授 業 計 画	13	泌尿器系総論	笹野
	14	腎臓の構造と機能 1	笹野
	15	腎臓の構造と機能 2	笹野
	16	尿管、膀胱、尿道の構造と機能	笹野
	17	解剖見学演習（演習） 1	笹野
	18	解剖見学演習（演習） 2	笹野
	19	素材から見た人体 1	柴原
	20	素材から見た人体 2	柴原
	21	神経細胞と支持細胞、興奮の伝達	柴原
	22	神経系の構造、脊髄、脳幹	柴原
	23	間脳、大脳	柴原
	24	脳室、脳脊髄液、末梢神経系 1	柴原
	25	末梢神経系 2、脳の高次機能 1	柴原
	26	脳の高次機能 2	柴原
	27	伝導路	柴原
	28	眼の構造と機能	柴原
	29	耳の構造と機能	柴原
	30	味覚、嗅覚、痛覚	柴原
教 科 書	系統看護学講座 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院		
参考文献 その他資料	参考書は、授業の内容及び学生の要望に応じて、適宜紹介する。		
成績評価方法	定期試験により評価する。 笹野先生担当分を60点、柴原先生担当分を40点の配点とし、合計60点以上を合格、60点未満を不合格として、60点未満について再試験を実施する。		
履 修 条 件	特になし		
備 考	1コマあたり1時間程度の予習・復習をすること。 <笹野 泰之> 不明なことがあれば積極的に質問すること。質問は授業中、授業終了後に受ける。回答については、受講者全員に説明し、情報を共有する。なお、解剖見学実習は、状況に応じて、演習に変更することがある。		

授 業 科 目 名	人体の構造と機能Ⅱ		科目の位置付け	Ⅱ－1－1－1,4
単 位 数	2単位		時 間 数	60時間
履 修 年 次	1年次 前期		必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	笹野 泰之、仲村 春和、中井 淳一、安藤 恵子		講 義 形 式	講義
授業の概要・目的	<笹野 泰之> 生体の内部環境を維持するしくみである自律神経系と内分泌系および身体の支持と運動を担う骨格と筋の構造とはたらきについて学ぶ。 <仲村 春和> 生殖系は次世代のヒトを生み出すための器官である、その基本構造について理解を深め、ヒトが受精卵からどのような過程で出来上がってくるか、さらに生後の成長と老化を学ぶことにより、ヒトの一生について学習する。 <中井 淳一、安藤 恵子> 血液、循環器系（心臓と血管系）が生命維持に果たす役割について学修する。			
授業のキーワード	交感神経、副交感神経、ホルモン、骨、骨格筋、ホメオスタシス、血液、心臓、血管系、関節、運動器、男性生殖器、女性生殖器、発生、老化			
授業の到達目標	Ⅰ 血液の役割について説明できる。 Ⅱ 心臓と血管系の構造と、そのはたらきを説明できる。 Ⅲ 自律神経系と内分泌系の構造とはたらきについて説明できる。 Ⅳ 全身の骨格と骨格筋の構成および構造とはたらきについて説明できる。 Ⅴ 男性生殖器、女性生殖器の構造およびヒトの発生から老化までの過程を理解する。			
授 業 計 画	回	内 容		担当教員
	1	自律神経Ⅰ		笹野
	2	自律神経Ⅱ		笹野
	3	内分泌系Ⅰ（総論）		笹野
	4	内分泌系Ⅱ（全身の内分泌腺と内分泌細胞①）		笹野
	5	内分泌系Ⅲ（全身の内分泌腺と内分泌細胞②）		笹野
	6	内分泌系Ⅳ（ホルモン分泌の調節、ホルモンによる調節の実際）		笹野
	7	骨格総論（骨の形態と構造、組織と組成、発生と成長、機能、骨の連結）		笹野
	8	骨格筋総論（骨格筋の構造と作用）、骨格と筋 各論Ⅰ（体幹）		笹野
	9	骨格と筋 各論Ⅱ（上肢）		笹野
	10	骨格と筋 各論Ⅲ（下肢）		笹野
	11	骨格と筋 各論Ⅳ（頭頸部）		笹野
	12	骨格筋のまとめ		笹野
	13	機能からみた人体（植物機能、動物機能、ホメオスタシス）		中井
	14	血液Ⅰ （血液の組成と機能、赤血球の機能〔ヘモグロビンの酸素解離曲線〕）		安藤
	15	血液Ⅱ（赤血球〔新生と破壊、貧血の分類〕、白血球の機能）		安藤

授 業 計 画	16	血液Ⅲ（血液の凝固と繊維素溶解、血液型〔ABO式、Rh式〕）	安藤
	17	心臓Ⅰ （ハーヴェーの功績：血液循環論、心臓の構造〔心房、心室、弁など〕）	中井
	18	心臓Ⅱ（心機能〔心臓の興奮伝播、心電図〕）	安藤
	19	心臓Ⅲ（心機能〔心周期、スターリングの心臓法則、心音、心雑音など〕）	安藤
	20	血管系（血管の構造と血管系の構成）	安藤
	21	循環調節Ⅰ（血圧〔最高血圧と最低血圧〕、血圧の測定）	安藤
	22	循環調節Ⅱ（自律神経や液性因子による血圧・血流の調整のしくみ）	安藤
	23	循環調整Ⅲ（微小循環と物質交換、リンパ循環、浮腫）	安藤
	24	循環調整Ⅳ （循環器の病態生理〔チアノーゼ、うっ血性心不全、高血圧など〕）	安藤
	25	男性生殖器	仲村
	26	女性生殖器	仲村
	27	卵巣周期、月経周期	仲村
	28	生殖細胞、減数分裂、受精	仲村
	29	初期発生、着床、胎盤	仲村
	30	胎児循環、成長と老化	仲村
教 科 書	系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕 解剖生理学 医学書院		
参考文献 その他資料	なし		
成績評価方法	定期試験により評価する。 笹野先生担当分を40点、中井先生・安藤先生担当分を40点、仲村先生担当分を20点の配点とし、合計60点以上を合格、60点未満を不合格として、60点未満について再試験を実施する。		
履 修 条 件	特になし		
備 考	教科書を良く理解しておくこと。特に各回の授業内容については事前に良く読んでおくこと（予習1時間程度）。また、受講した授業については、教科書、ノート、配信資料を利用して学修内容を復習すること（復習1時間程度）。 <仲村 春和> 冒頭に前回の講義内容に関する10分くらいの小テストを行う。 <笹野 泰之> 不明なことがあれば積極的に質問すること。質問は授業中、授業終了後に受ける。回答については、受講者全員に説明し、情報を共有する。		

授 業 科 目 名	生化学	科目の位置付け	Ⅱ－2－1－1,4
単 位 数	1単位	時 間 数	30時間
履 修 年 次	1年次 前期	必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	中川 直人	講 義 形 式	講義
授業の概要・目的	①生体の恒常性の維持機構を分子レベルで理解するため、生体を構成する分子（糖質、脂質、タンパク質、核酸など）の基本的性質およびそれら構成分子の生合成機構、代謝機構、相互作用等について理解する。さらに、②恒常性の破綻が病気の発症につながることを理解する。		
授業のキーワード	細胞、生体分子、栄養素、代謝、エネルギー、酵素、遺伝子		
授業の到達目標	Ⅰ 生体を構成する物質とその代謝を理解し説明できる。 Ⅱ 遺伝情報とその発現を理解し説明できる。 Ⅲ 細胞のシグナル伝達と病気との関係を理解し説明できる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	生化学を学ぶための基礎知識	
	2	代謝の基礎と酵素・補酵素	
	3	糖質の構造と機能	
	4	糖質代謝	
	5	脂質の構造と機能	
	6	脂質代謝	
	7	タンパク質の構造と機能	
	8	タンパク質代謝	
	9	ポルフィリン代謝と異物代謝	
	10	遺伝子と核酸	
	11	遺伝子の複製・修復・組換え	
	12	転写	
	13	翻訳と翻訳後修飾	
	14	シグナル伝達	
15	がん		
教 科 書	系統看護学講座 人体の構造と機能〔2〕 生化学 医学書院 生化学 からだの不思議を解き明かす（初めの一步は絵で学ぶ） じほう		
参考文献・その他資料	資料を配布する。		
成績評価方法	事前講義の課題15%、講義中の小テスト15%と期末の筆記試験結果70%を合計して評価する。		
履 修 条 件	特になし		
備 考	講義では、スマホを用いて双方向授業を実施することもある。講義後は、教科書、配信資料の内容を理解すること。予習・復習合わせて1時間程度行うこと。		

授 業 科 目 名	微生物・免疫学	科目の位置付け	Ⅱ－2－1－1,4
単 位 数	1単位	時 間 数	30時間
履 修 年 次	1年次 前期	必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	藤村 茂	講 義 形 式	講義
授業の概要・目的	感染症を引き起こす病原細菌やウイルスの特性について理解する。さらに感染症の発症メカニズムや感染症化学療法概念および診断学的な微生物検査法を学び、臨床看護に役立つ感染症の基礎知識を習得する。各論として細菌、リケッチア、ウイルス、原虫等の病原微生物の形態、感染経路、病原性などを学ぶ。また、病原微生物学を理解する上で必要な免疫による生体防御機構についてと院内感染防止に重要な消毒法や滅菌の意義についても学習する。		
授業のキーワード	病原微生物、各種感染症、抗菌薬の種類と作用、薬剤耐性菌、感染制御、免疫の仕組み、消毒と滅菌、ワクチン		
授業の到達目標	感染症を理解するために各種病原微生物の特徴、感染様式、病原性など基本的知識を習得する。 Ⅰ 感染と免疫応答との関わりについて理解する。 Ⅱ グラム陽性・陰性菌、マイコプラズマ、クラミジア、原虫、寄生虫、ウイルス、真菌について概説できる。 Ⅲ 感染症治療に用いられている抗菌薬の作用や、感染制御、ワクチンについて概説できる		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	病原微生物学の歴史、病原体の種類、生物学的分類、感染の成立と経過	
	2	感染症の種類、細菌の形態・増殖、分類とグラム染色	
	3	グラム陽性菌①：ブドウ球菌、レンサ球菌、腸球菌	
	4	グラム陽性菌②：芽胞形成菌、嫌気性菌	
	5	グラム陰性菌①：腸内細菌目細菌（大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属）	
	6	グラム陰性菌②：エルシニア属、ビブリオ属、ヘモフィルス属、シュードモナス属、アシネトバクター属	
	7	グラム陰性菌③：レジオネラ属、カンピロバクター属、ヘリコバクターピロリ、百日咳菌など	
	8	マイコプラズマ、結核菌および各種性感染症の原因菌について	
	9	リケッチア、クラミジア、原虫、寄生虫について	
	10	抗菌薬の種類と特徴	
	11	ウイルスの形態、分類、増殖、病原性、DNAウイルス等	
	12	RNA ウイルス①：インフルエンザ、ムンプス、麻疹、RS、狂犬病、ポリオ等	
	13	RNA ウイルス②：ロタ、風疹、日本脳炎、デング熱、エボラ出血熱、コロナ	
	14	RNA ウイルス③：ノロ、HIV、肝炎ウイルス真菌の形態と構造、各種真菌の種類と特徴	
15	免疫・生体防御の機構、ワクチンと予防接種		
教 科 書	病原体・感染・免疫 改訂3版 南山堂		
参考文献 其他資料	戸田新細菌学 南山堂		
成績評価方法	筆記試験にて評価します。		
履 修 条 件	特になし		
備 考	講義中に述べるポイントを中心によく復習し、後で振り返ることができるノートを作成すると理解が深まります。（復習1時間程度）		

授 業 科 目 名	薬理学	科目の位置付け	Ⅱ－2－1－1,4
単 位 数	1単位	時 間 数	30時間
履 修 年 次	1年次 後期	必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	柴原 茂樹	講 義 形 式	講義
授業の概要・目的	くすり（薬剤）は多くの疾病の治療に用いられ、患者の命を救い、症状を緩和するのに役立っている。一方、くすりの使い方の間違いや、くすりを服用した場合に、有害作用があらわれることがある。これらのくすりの効果や副作用は、くすりの有効成分である薬物が、生体の特定の成分に結合し、その働きを変化させることによってあらわれる。この薬物と生体の相互作用を探究する学問が「薬理学」である。本授業では、薬理学の基礎知識を学び、感染症治療薬、抗がん薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬などの作用機序を理解する。さらに、神経系、循環器系、呼吸器系、消化器系、内分泌系などの代表的な疾患の病態と薬理作用に基づく治療法を理解する。		
授業のキーワード	薬物、薬理作用、主作用、副作用、体内動態、薬効の個人差、薬物受容体		
授業の到達目標	Ⅰ 薬物が効果をあらわす基本的な仕組みを理解し説明できる。 Ⅱ 感染症治療薬や抗がん薬などの作用機序を理解し説明できる。 Ⅲ 薬物の臨床応用と治療効果やその問題点を理解し説明できる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	薬理学とは	
	2	薬理学の基礎知識（１）	
	3	薬理学の基礎知識（２）	
	4	感染症治療薬	
	5	抗がん薬	
	6	免疫治療薬	
	7	抗アレルギー薬・抗炎症薬	
	8	抗リウマチ薬・免疫作用薬	
	9	末梢での神経活動に作用する薬物	
	10	中枢神経系に作用する薬物	
	11	心臓・血管系に作用する薬物（１）	
	12	心臓・血管系に作用する薬物（２）	
	13	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物	
	14	物質代謝に作用する薬物（１）	
	15	物質代謝に作用する薬物（２）	
教 科 書	系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進〔3〕薬理学 医学書院		
参考文献 其他資料			
成績評価方法	筆記試験結果 90%、授業態度 10%を合計し評価する。		
履 修 条 件	特になし		
備 考	1. 薬物が作用をあらわす仕組みについて、体内の器官および細胞や分子の働きをベースによく理解し、臨床現場において用いられる薬物療法の機序についての理解を深めてほしい。 2. 予め、授業範囲を教科書の該当章などで周知するので、教科書をよく理解しておくこと。 3. 講義後に練習問題を提示する場合もある。 4. 1コマあたり合計1時間程度の予習・復習をすること。		

授 業 科 目 名	病態生理学	科目の位置付け	Ⅱ－2－1－1,4
単 位 数	1 単位	時 間 数	30時間
履 修 年 次	1 年次 後期	必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	笹野 公伸	講 義 形 式	講義
授業の概要・目的	1 年生前期で学んだ基礎科目「人体の構造と機能」の理解の上に立って、疾患の概念を学ぶ初めての科目であり、2 年次の臨床科目「疾病治療論」へと橋渡しする科目でもある。本科目では初めに、古典病理学に則った分類として、炎症・腫瘍・循環障害などの総論を学ぶ。次いで各論として、臓器・組織ごとの疾患群を取り上げる。病理組織学的立場からではなく、生理機能の破綻という視点から、疾患を理解する。したがって、どのような機序で、どのような症状が現れ、どのような経過をたどるのか、できる限り論理的に理解することを目標とする。論理を理解できて初めて、記憶への定着が可能となる。		
授業のキーワード	器質的障害、機能障害、機能不全、症候・徴候、予後		
授業の到達目標	Ⅰ 生理機能の破綻がどのように病態につながるのか、関連を説明できる。 Ⅱ 病態ごとに、その症状・検査所見を、説明できる。 Ⅲ 各病態の特徴を、説明できる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	細胞障害と増殖	
	2	循環障害	
	3	感染症	
	4	アレルギー	
	5	腫瘍 その1	
	6	老化	
	7	脳神経系の病態生理 1	
	8	循環器の病態生理 1	
	9	消化器の病態生理 1	
	10	内分泌代謝の病態生理 1	
	11	呼吸器の病態生理 1	
	12	腎泌尿器の病態生理 1	
	13	生殖器の病態生理 1	
	14	骨筋の病態生理	
	15	血液の病態生理	
教 科 書	系統看護学講座 疫病のなりたちと回復の促進〔2〕病態生理学 医学書院		
参考文献 其他資料	講義資料はUniTextにアップする。		
成績評価方法	定期試験による。		
履 修 条 件	特になし		
備 考	予習は特に求めないが、復習は1 回の講義当たり、30分は必要である。 15回の授業で不足の分はさらに15回の補講により補う。補講も出欠席をとり、正規の授業と同様に定期試験の受験資格、ならびに試験範囲の対象とする。		

授 業 科 目 名	看護学概論		科目の位置付け	Ⅲ－１－１－１,2,3,4,5
単 位 数	2単位		時 間 数	30時間
履 修 年 次	1年次 前期		必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	熊田 真紀子、小野 八千代、坂本 智恵子 (全員実務経験あり)		講 義 形 式	講義
授業の概要・目的	看護を学ぶにあたっての導入を学ぶ。看護職に求められる資質を理解し、看護の原点、看護の歴史、看護の概念、機能と役割、専門性、倫理、看護と法律、キャリア等、幅広く学ぶ。その学びから看護の役割、倫理的姿勢、看護とはなにかについて考察し、理解を深める。			
授業のキーワード	看護、人間、健康、環境、生活			
授業の到達目標	Ⅰ 看護の定義、看護の機能と役割について説明できる。 Ⅱ 看護職に求められる資質について理解ができる。 Ⅲ 看護の概念・看護における人間の捉え方を説明できる。 Ⅳ 保健・医療・福祉チームにおける看護の機能と役割について説明できる。 Ⅴ 看護と法律、倫理、社会的責任について説明できる。 Ⅵ 看護とはなにかについて考察し説明できる。 Ⅶ 看護職としての自分の姿を捉えることができる。			
授 業 計 画	回	内 容		担当教員
	1	ガイダンス（看護学概論の位置づけ、学習内容、学習方法） 看護を学び始める皆さんへ 看護の基本となるもの（V.ヘンダーソン）		熊田
	2	看護とは（看護の原点からF. ナイチンゲールの時代まで） 看護の定義①（職能団体から、F. ナイチンゲール）		小野
	3	看護とは 看護の定義②（看護理論家から）ケアについて		小野
	4	看護の役割と機能 （看護実践に欠かせない要素、看護の継続性・連携）		小野
	5	看護の対象の理解 統合体としての人間理解、ホメオスタシス、ストレス反応、欲求段階説、 発達課題		小野
	6	国民の健康状態と生活① 生活者としての人間理解、健康の定義、障害、国民の健康状態		小野
	7	国民の健康状態と生活② ライフサイクル、健康・生活（統計的に理解する）		小野
	8	看護職としての看護の変遷、看護に関する法律		熊田
	9	看護師養成制度、継続教育、キャリア開発		熊田
	10	看護倫理、医療倫理		坂本
	11	看護実践における倫理 倫理について事例を取り上げディスカッション（GWと発表）		坂本
	12	看護の提供のしくみ 看護サービス提供の場（保健・医療・福祉）チーム医療、継続看護		熊田
	13	看護をめぐる制度と政策 看護と法律、看護管理、看護配置、医療安全		熊田
	14	広がる看護の活動領域災害看護、国際看護		熊田
	15	看護とは何か、まとめ		熊田

教科書	系統看護学講座 基礎看護学〔1〕 看護学概論 医学書院 看護の基本となるもの ヴァージニア・ヘンダーソン著 日本看護協会出版会 看護覚え書 現代社
参考文献 その他資料	実践に生かす看護理論19 サイオ出版
成績評価方法	筆記試験80%、レポート20%を合計し評価します。
履修条件	なし
備考	事前学習として、次回の授業単元内容の課題を良く読んでおくこと。 （予習時間1時間程度） 事後学習として、授業単元ごとに課題を出します。 （復習時間1時間程度） 課題・レポートについてはコメントをして返却します。

授 業 科 目 名	看護技術論 I	科目の位置付け	Ⅲ-1-1-1,2,3,4
単 位 数	2単位	時 間 数	60時間
履 修 年 次	1年次 前期	必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	菊地 真、小野 八千代、熊田 真紀子、 坂本 智恵子、佐藤 大介（全員実務経験あり）	講 義 形 式	講義・演習
授業の概要・目的	基礎看護学における援助論は、対象の安全、安楽、自立を目指した看護を実践するうえでの基盤となる基本的知識や看護技術を学習する内容である。 看護技術論 I では、対象の日常生活行動にかかわる看護実践に必要な基本的知識や科学的根拠に基づいた原理原則を学習する。		
授業のキーワード	看護技術、ニーズ、生活者、日常生活行動、QOL、EBN		
授業の到達目標	I 看護実践に共通する基本技術を実施できる。 II 対象の日常生活行動を観察し、必要とされる看護を評価する視点が説明できる。 III 対象の日常生活のニーズに合わせて援助する方法を習得する。 IV 主体的に学習する態度を身につけ、看護技術実践能力の向上を目指すことができる。 V 科学的根拠に基づき、対象に合った個別的援助方法を実施する姿勢がもてる。		
授 業 計 画	回	内 容	担当教員
	1	科目ガイダンス、看護技術論、基礎看護学実習室の使い方	菊地
	2	看護におけるコミュニケーション	菊地
	3	感染予防技術①感染防止の基礎技術	佐藤
	4・5	感染予防技術②手洗い、スタンダードプリコーション	佐藤
	6	環境調整技術①療養生活環境を整える技術	菊地
	7・8	環境調整技術②ベッドメイキング、リネン交換	菊地
	9・10	環境調整技術③臥床患者のシーツ交換、ベッド周辺の環境整備	菊地
	11	看護における安全と安楽	熊田
	12・13	安楽確保技術 安楽な体位保持	熊田
	14	活動・休息援助技術①人間にとっての活動と休息	佐藤
	15・16	活動・休息援助技術②体位変換、移乗・移送	佐藤
	17	清潔・衣生活援助技術①人間にとっての清潔	坂本
	18・19	清潔・衣生活援助技術②全身清拭、寝衣交換	坂本
	20	清潔・衣生活援助技術③部分浴（手浴、足浴）	坂本
	21・22	清潔・衣生活援助技術④洗髪、整容	坂本
	23	食事援助技術①人間にとっての食事	小野
	24・25	食事援助技術②食事介助、口腔ケア	小野
	26	排泄援助技術①人間にとっての排泄	菊地
	27・28	排泄援助技術②床上排泄援助、陰部洗浄	菊地
	29	排泄援助技術③導尿、浣腸・摘便	菊地
	30	総括	菊地
教 科 書	系統看護学講座 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II 医学書院		

参考文献 その他資料	基礎看護学テキスト EBN志向の看護実践 南江堂 その他、参考となる文献については適宜、授業で提示・紹介します。
成績評価方法	定期試験結果70%、授業・課題学習への取り組み30%を合計し、評価します。
履修条件	特になし
備考	看護技術の基本を学修するため、授業前には単元範囲の教科書をよく読んでおくこと（予習2時間程度）。また授業後には必ず教科書と配布資料等を確認し、単元内容を整理すること（復習2時間）。さらに技術習得のための課題（手順書作成等）及び技術練習が必要となる（4時間程度）。課題提出も評価の対象とする。 基礎看護学実習室を活用し、主体的に看護技術修得・向上に努めること。

授 業 科 目 名	看護過程論		科目の位置付け	Ⅲ－１－１－１,2,3,4
単 位 数	2単位		時 間 数	30時間
履 修 年 次	1年次 後期		必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	菊地 真、小野 八千代、熊田 真紀子、 坂本 智恵子、佐藤 大介（全員実務経験あり）		講 義 形 式	講義
授業の概要・目的	看護過程は、看護をより科学的に、対象に最適な看護実践をするための思考・方法である。また、看護過程にはアセスメント、看護問題の明確化（看護診断）、看護計画、立案、実施、評価の５段階のプロセスがある。この５段階のプロセスを展開することによって、対象に適切で、個別的な看護が提供できる。 本科目では、今後の看護実践における看護過程の基本を学習する。また、事例学習を通して、このプロセスを学習する。			
授業のキーワード	看護過程、基本的看護の構成要素、基本的欲求、アセスメント、関連図、看護計画、看護介入、評価			
授業の到達目標	Ⅰ 看護過程の概念や構成要素、プロセスについて説明できる。 Ⅱ ヘンダーソンの基本的ニーズに基づくアセスメントが記述できる。 Ⅲ アセスメントから看護問題抽出、看護計画立案、実施ができる。 Ⅳ 看護目標到達を目指した評価の視点を述べることができる。			
授 業 計 画	回	内 容		担当教員
	1	科目ガイダンス、問題解決思考と看護過程		菊地
	2	看護過程の５つの構成要素：①情報収集と整理、情報の解釈		菊地
	3	看護過程の５つの構成要素：②看護問題と看護計画立案・実施・評価		菊地
	4	Ⅴ. ヘンダーソンの基本的看護の構成要素		菊地
	5	基本的欲求に影響を及ぼす常在条件、基本的欲求を変容させる病理的状态		菊地
	6	事例学習：アセスメント（１）情報の整理		菊地
	7	事例学習：アセスメント（２）情報の分析		菊地
	8	事例学習：関連図		菊地
	9	事例学習：看護問題の明確化・看護計画の立案		菊地
	10	事例学習：実施		菊地
	11	事例学習：実施		菊地
	12	事例学習：実施と評価		菊地
	13	事例学習：実施と評価		菊地
	14	看護実践と看護過程		菊地
	15	看護過程のまとめ		菊地
教 科 書	系統看護学講座 基礎看護学〔２〕 基礎看護学技術Ⅰ 医学書院			
参考文献 其他資料	看護の基本となるもの ヴァージニア・ヘンダーソン著 日本看護協会出版会 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 第5版 ニューヴェルヒロカワ 看護がみえるvol.4 看護過程の展開 メディックメディカ 他、参考となる文献については、適宜授業内で提示・紹介します。			
成績評価方法	定期試験結果70%、課題レポート（事例学習の記録等）やグループワークの取り組み30%合計し評価する。			
履 修 条 件	看護学概論、看護技術論Ⅰ、基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱの単位を修得していること			
備 考	看護過程の基本を学修するため、授業前には単元範囲の教科書をよく読んでおくこと（予習２時間程度）。また授業後には必ず教科書と配布資料を確認し、単元内容を整理すること（復習２時間）。特に事例学習の期間は課題（レポートや記録等）を基に進めるため、事前・事後学習（４時間程度）を行い、授業に臨むこと。 事例学習で用いた記録類は定期的に内容を確認し、コメントをして返却します。			

授 業 科 目 名	看護技術論Ⅱ		科目の位置付け	Ⅲ－１－１－１,2,3,4
単 位 数	2単位		時 間 数	60時間
履 修 年 次	1年次 後期		必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	小野 八千代、菊地 真、熊田 真紀子、 坂本 智恵子、佐藤 大介（全員実務経験あり）		講 義 形 式	講義・演習
授業の概要・目的	基礎看護学における援助論は、対象の安全、安楽、自立を目指した看護を実践するうえでの基盤となる基本的知識や態度、看護技術を学習する内容である。 看護技術論Ⅱでは、診断・検査・治療にかかわる看護実践に必要な基本的知識や科学的根拠に基づいた原理原則を学習する。			
授業のキーワード	看護技術、診療の補助、個別的援助、EBN			
授業の到達目標	Ⅰ 診療の補助にかかわる看護師の役割と責務を考察できる。 Ⅱ 診療の補助にかかわる看護技術に必要な知識や基礎的技術を考察できる。 Ⅲ 主体的に学習する態度を身につけ、看護技術実践能力の向上を目指すことができる。 Ⅳ 科学的根拠に基づき、対象者に合った個別的援助方法を実施する姿勢がもてる。			
授 業 計 画	回	内 容		担当教員
	1	科目ガイダンス 診察・検査・処置の介助における看護師の役割		小野
	2・3	感染予防技術：洗浄・消毒・滅菌		佐藤
	4	感染予防技術：病院内での感染予防の実際		熊田
	5・6	感染予防技術無菌操作の実際		佐藤
	7	呼吸・循環を整える技術		熊田
	8・9	呼吸・循環を整える技術の実際		熊田
	10	症状・生体機能管理技術		熊田
	11・12	症状・生体機能管理技術の実際		熊田
	13	創傷管理技術		菊地
	14・15	創傷管理技術の実際		菊地
	16	与薬の技術：与薬の基礎知識、経口与薬等		小野
	17	与薬の技術：注射の基礎知識、アンプルカット		小野
	18・19	与薬の技術：アンプルカットの実際、アンプルからの吸い上げ		小野
	20	与薬の技術注射（皮下注射、皮内注射、筋肉注射）		小野
	21・22	与薬の技術：注射の実施（筋肉注射の実際）		小野
	23	与薬の技術：静脈注射、輸血管理		坂本
	24・25	与薬の技術：静脈注射の実際		坂本
	26	症状・生体機能管理技術		菊地
	27・28	症状・生体機能管理技術：静脈血採血の実際		菊地
	29	死の看取りの援助		熊田
	30	総括		小野
教 科 書	系統看護学講座 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院			
参考文献 その他資料	授業の中で適宜紹介する。			
成績評価方法	授業・課題学習への取り組み（20%）、筆記試験（80%）			
履 修 条 件	特になし			

備 考	看護技術の基本を学修するため、授業前には単元範囲の教科書をよく読んでおくこと（予習 2 時間程度）。また授業後には必ず教科書と配布資料等を確認し、単元内容を整理すること（復習 2 時間）。さらに技術習得のための課題（手順書作成等）及び技術練習が必要となる（4 時間程度）。課題提出も評価の対象とする。 基礎看護学実習室を活用し、主体的に看護技術修得・向上に努めること
------------	---

授 業 科 目 名	フィジカルアセスメント	科目の位置付け	Ⅲ－1－1－1,2,3,4
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
履 修 年 次	1年次 通年	必 修 ・ 選 択	必修
講 義 形 式	講義・演習		
担 当 教 員	熊田 真紀子、小野 八千代、菊地 真、坂本 智恵子、佐藤 大介、 安彦 武（非常勤）、工藤 淳（非常勤）、山口 真一（非常勤）（全員実務経験あり）		
授業の概要・目的	ヘルスアセスメントの意義と目的を理解し、必要とされる技術を学びます。バイタルサインの観察、計測、系統別アセスメント、心理・社会状態のアセスメントといったヘルスアセスメントの実践について学びます。またヘルスアセスメントとフィジカルアセスメントの関係性を理解し、得られた結果を実際のケアに結びつけていく態度を養います。フィジカルアセスメントは、看護を実践するための情報収集の手段であり、収集した身体的情報から対象の健康状態を評価することが目的です。基礎看護学領域では、身体計測やバイタルサイン測定、フィジカルアセスメントに必要な基本的なフィジカルイグザミネーション技術である問診・視診・打診・聴診を学習し、系統的なフィジカルアセスメントの実施方法を学習します。		
授業のキーワード	ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーション、身体機能、系統的観察		
授業の到達目標	Ⅰ ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメントの概念が説明できる。 Ⅱ 対象の身体機能を把握するための観察方法が説明できる。 Ⅲ 基本的なフィジカルイグザミネーションが習得できる。 Ⅳ アセスメントの方法・評価の視点が説明できる。		
授 業 計 画	回	内 容	担当教員
	1	科目ガイダンス、ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメントの概念、セルフケア能力からのアセスメント	熊田 安彦
	2	問診（面接）、健康歴聴取、身体計測、バイタルサイン（体温・脈拍・呼吸・血圧）の測定方法とアセスメント（講義）	熊田 安彦
	3	フィジカルイグザミネーションの方法	熊田・工藤
	4	循環器・呼吸器系のフィジカルアセスメント（講義）	熊田・工藤
	5	フィジカルイグザミネーションの方法	熊田・工藤
	6	呼吸器・腹部系のフィジカルアセスメント（講義）	安彦
	7	循環器系のフィジカルアセスメント	安彦
	8	腹部のフィジカルアセスメント（講義）	安彦
	9	頭頸部、筋・骨格系のフィジカルアセスメント（講義）	安彦
	10	脳神経系のフィジカルアセスメント（講義）	工藤
	11	バイタルサインの測定方法 体温・脈拍・呼吸・血圧（演習）	工藤
	12	バイタルサインの測定方法 体温・脈拍・呼吸・血圧（演習）	安彦
	13	呼吸器系、循環器系、腹部のフィジカルアセスメント（演習）	安彦
	14	呼吸器系、循環器系、腹部のフィジカルアセスメント（演習）	安彦
	15	心理・社会状態のアセスメント（講義）全体のまとめ	安彦
教 科 書	系統看護学講座 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 基礎看護学テキスト EBN志向の看護実践 南江堂		

参考文献 その他資料	授業で随時提示・紹介します。
成績評価方法	授業・課題学習への取り組み 20%、筆記試験 80%を合計し、評価します。
履修条件	なし
備 考	事前学習は講義の前に 2 時間程度の学習が必要となります。 事後学習は演習の後に 2 時間程度の学習や技術取得のために空き時間を活用して、実習で患者さんに実施できるよう繰り返しの練習が必要となります。課題については内容を確認し、コメントをして返します。 基礎看護学実習室及びスキルラボを活用し、主体的に看護技術修得・向上に努めてください。

授 業 科 目 名	地域・在宅看護概論	科目の位置付け	Ⅲ－2－1－1,4,5
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
履 修 年 次	1年次 後期	必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	平尾 由美子（実務経験あり）	講 義 形 式	講義
授業の概要・目的	地域・在宅看護の対象である「地域で暮らすすべての人々」の健康と暮らしを支援する看護実践の基盤となる知識を学ぶ。地域と人々の暮らし、健康の関連について理解し、地域包括システムの基本理念とその構築に向けた看護職の新たな役割について学ぶ。		
授業のキーワード	地域、暮らし、地域包括ケアシステム、家族支援、社会資源、介護保険制度		
授業の到達目標	1．日本の地域・在宅看護の変遷とその社会的背景について説明できる。 2．地域と人々の暮らし、健康の関係について説明できる。 3．地域・在宅看護の目的と看護職の役割について説明できる。 4．地域包括ケアシステムの基本理念について説明できる。 5．地域・在宅看護に関する主な社会保障制度について説明できる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	オリエンテーション/ 地域・在宅看護の変遷	
	2	序章～第1章：人々の暮らしと地域・在宅看護	
	3	第2章-A,B：暮らしの基盤としての地域の理解	
	4	地域の特性を活かしたまちづくり、健康づくり （特別講師：内山）	
	5	第3章：地域・在宅看護の対象-多様性と家族の理解	
	6	第4章：地域における暮らしを支える看護-暮らしと環境	
	7	在宅療養環境の基本－住環境整備 （特別講師：内山）	
	8	第4章：地域における暮らしを支える看護-ライフステージに応じた看護、暮らしにおけるリスク	
	9	第5章：地域・在宅看護実践の場と連携	
	10	第2章-C：地域包括ケアシステムの概念とその構築	
	11	第6章-A,B：地域・在宅看護にかかわる制度とその活用- ①医療保険・介護保険の概要	
	12	第6章-A,B：地域・在宅看護にかかわる制度とその活用- ②介護保険制度の仕組み	
	13	第6章-A,B：地域・在宅看護にかかわる制度とその活用- ③介護保険制度の実際とその他の制度	
	14	第6章-C：地域・在宅看護にかかわる制度とその活用- ④訪問看護制度	
15	地域・在宅看護の動向と今後の発展 まとめ		
教 科 書	系統看護学講座 地域・在宅看護論〔1〕地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論〔2〕地域・在宅看護の実践 医学書院		
参考文献 その他資料	授業の中で適宜紹介する。		
成績評価方法	成績評価は、授業準備、参加態度（10％）、レポート（10％）、期末試験（80％）により評価する。		
履 修 条 件	特になし		
備 考	1回の授業につき4時間の学習が必要である。教科書や授業資料を活用し予習・復習を実施すること。課題レポートおよび試験結果については、授業内や掲示でフィードバックする。		

授 業 科 目 名	成人看護学概論		科目の位置付け	Ⅲ－３－１－1,4,5
単 位 数	2単位		時 間 数	30時間
履 修 年 次	1年次 後期		必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	安倍 藤子 岩渕 起江（全員実務経験あり）		講 義 形 式	講義
授業の概要・目的	成人各期にある人の特徴と発達課題を学び、成人看護の役割について理解する。 成人期の特徴を身体的・心理的・社会的側面から理解し、健康上のニーズを学習する。また、成人期の保健の動向を把握し、それによって成人期にある人の健康に対する課題を学ぶとともに、成人保健活動や、健康保持に対する看護援助を理解し、有用な理論や概念を学習することにより、成人看護の役割とは何かを考える。			
授業のキーワード	成人期の発達課題、青年期・壮年期・中年期・向老期、生活習慣病、セルフケア、病みの軌跡、ストレス理論、危機理論、ヘルスプロモーション			
授業の到達目標	Ⅰ 発達課題における成人期の位置づけを明確にできる。 Ⅱ 成人期にある対象の特徴と健康問題について述べることができる。 Ⅲ 成人期にある対象への看護に有用な理論や概念を説明することができる。 Ⅳ 既習の知識を活用して、成人期にある対象の健康問題に対する看護アプローチについて理解したことを説明できる。			
授 業 計 画	回	内 容		担当教員
	1	オリエンテーション「成人看護学」の特徴、成人であるということ		安倍
	2	成長発達段階における成人期の位置づけ		安倍
	3	成人各期の成長発達と健康問題 身体機能の理解		安倍
	4	身体機能の変化に着目した看護 成人の生活を理解する視点と方法 健康観の多様性と看護		安倍
	5	学習の特徴と看護		安倍
	6	国民衛生の動向を見てみよう 生活習慣に関連する健康障害		安倍
	7	ワーク・ライフ・バランスと健康障害		岩渕
	8	成人と死 前半のまとめ		岩渕
	9	セクシャリティとジェンダーに関連する健康障害 更年期にみられる健康障害		岩渕
	10	病みの軌跡		岩渕
	11	セルフケア		岩渕
	12	ストレス、適応		岩渕
	13	危機		岩渕
	14	ヘルスプロモーション、自己効力		岩渕
	15	まとめ		安倍
教 科 書	ナーシンググラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論 メディカ出版 国民衛生の動向（厚生労働統計協会）			
参考文献 その他資料	参考書は、授業の内容及び学生の要望に応じて、適宜紹介する。			
成 績 評 価 方 法	評価は以下の３点を総合して行う。詳細については初回（オリエンテーション時）に説明する。 ①レポート（10%）、②筆記試験（80%）、③グループ学習参加状況（10%） やむを得ない理由による欠席の場合は、前もって連絡をし、学生自らの申し出により別途設定する補講等を提示する。			
履 修 条 件	特になし			
備 考	【受講開始前】人の成長発達や成人の看護に役立つ看護理論に関する文献を読み、成人期について一般的な理解をしておくこと。授業内容の理解を深めるために、授業で提示する予習項目について60分～90分程度の予習をする。学習内容を確認して授業に臨むこと。 【受講開始後】各回テーマを提示するので、それに対して自己の考えをまとめる。ノートを準備し、講義に臨むこと。初回の授業に必ず出席する。そこで本講義の目的・方法・成績評価法、シラバスの変更点等の重要事項を説明する。本講義は、成人看護学の基礎となるものであるため、成績評価も厳しく行う。※課題学習は、提出を受け、担当教員が内容を確認後に返却する。理解促進のために、必要時はコメントの記入、次回授業で疑問点の解消の機会を持つ。			

授 業 科 目 名	高齢者看護学概論	科目の位置付け	Ⅲ－4－1－1,2,3,4,5
単 位 数	1 単位	時 間 数	15時間
履 修 年 次	1 年次 後期	必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	森岡 薫、佐藤 文枝（全員実務経験あり）	講 義 形 式	講義
授業の概要・目的	高齢者を身体的・心理的・社会的側面から理解する。また高齢期にある人の多様性や加齢による生活の変化、健康問題を理解し、高齢期にある人およびその家族への看護援助を理解する。高齢者看護の歴史、高齢期の発達課題と看護、高齢期にある人をポジティブにとらえ人生の完結を目指すための支援、高齢者と保健医療福祉についても学ぶ。また、高齢者の権利擁護についても理解し、高齢者看護の目的・役割を理解する。		
授業のキーワード	高齢者、発達課題、社会保障、権利擁護、生活史、老年看護		
授業の到達目標	Ⅰ 高齢者の身体的・心理的・社会的特徴を理解する。 Ⅱ 高齢者を支援する諸制度について理解する。 Ⅲ 高齢者看護の特徴を理解する。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	老年看護を学ぶ入り口 老いるということ	
	2	高齢者の発達と成熟	
	3	超高齢社会の現況	
	4	高齢者の権利擁護	
	5	高齢者の生活史（演習）①	
	6	高齢者の生活史（演習）②	
	7	高齢者の生活史（演習）③	
	8	老年看護における理論・概念の活用 まとめ	
教 科 書	系統看護学講座 老年看護学 医学書院		
参考文献 その他資料	授業で適宜紹介する。		
成績評価方法	定期試験（80％）とレポートやミニテストへの取り組み（10％）、演習への取り組み（10％）を合計し評価する。		
履 修 条 件	特になし		
備 考	単元について教科書を読んだ上で授業に臨むこと。配布資料の内容は必ず理解・習得すること。予習・復習含め4時間以上の学習が必要である。課題レポートおよび受講後の質問等については、授業内や掲示でフィードバックする。		

授 業 科 目 名	小児看護学概論	科目の位置付け	Ⅲ－5－1－2,4,5
単 位 数	1 単位	時 間 数	15時間
履 修 年 次	1 年次 後期	必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	井上 由紀子（実務経験あり）	講 義 形 式	講義
授業の概要・目的	小児看護の対象である子供の特徴を理解し、子供の権利擁護や倫理、健康を守る保健医療福祉システムを理解する。 子供の成長・発達の個人差や病気や障害に及ぼす影響を理解する。 病気や障害をもつ子供だけでなく健康な子供や養育者も小児看護の対象であることをとらえることができるよう学習する。		
授業のキーワード	小児看護、理念、成長、発達、個別性、小児保健		
授業の到達目標	Ⅰ 小児看護の理念と目標について理解できる。 Ⅱ 子供の成長・発達について理解できる。 Ⅲ 子供の心理・社会的発達について理解できる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	ガイダンス、小児看護学の理念と子供の特徴	
	2	子供の成長と発達の一般的原則	
	3	子供の身体の発達と変化	
	4	子供の呼吸、循環、血液、免疫の特徴	
	5	子供の消化器、肝、腎、代謝、体温、神経系の特徴	
	6	子供の運動機能の発達と言語の発達	
	7	子供の情緒、社会性の発達と評価	
	8	小児保健の動向と保健医療対策、母子保健、医療費支援、まとめ	
教 科 書	系統看護学講座 小児看護学〔1〕小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院		
参考文献 其他資料	ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 メディカ出版		
成績評価方法	筆記試験85%、課題、授業への取り組み15%を総合的に評価する。		
履 修 条 件	特になし		
備 考	自分の子供時代を振り返りつつ授業に参加してほしい。看護の対象として子供をとらえ、現代社会で取り上げられる子供の最新の話題についても関心をもつこと。 教科書、参考文献、その他の資料（配付資料含む）を活用し、発展的学習で学びを深めること（予・復習2時間程度）。 提出された課題は講義中に使用するとともに、全体的な解説・講評を行う。事前連絡なしでの課題の遅延・未提出については原則評価対象外とする。		

授 業 科 目 名	母性看護学概論	科目の位置付け	Ⅲ－6－1－1,2,3,4,5
単 位 数	1単位	時 間 数	15時間
履 修 年 次	1年次 後期	必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	佐藤 喜根子、青野 都（全員実務経験あり）	講 義 形 式	講義
授業の概要・目的	母性の概念および母性の特性や発達段階に応じた女性の健康と健康問題を理解し、母性看護に必要な知識を学ぶ。		
授業のキーワード	母性・セクシュアリティ・リプロダクティブヘルス/ ライツ・母子関係法規		
授業の到達目標	Ⅰ 母性看護の特性から母性看護の概念を理解できる。 Ⅱ 女性のライフサイクルに応じた健康の特徴と支援方法を理解できる。 Ⅲ 母性看護の変遷と対象を取り巻く環境、母子関係法規について理解できる。 Ⅳ 生命倫理や国際的視点で母性看護の役割を理解できる。		
授 業 計 画	回	内 容	担当教員
	1	オリエンテーション： 母性とは何か、女性のライフサイクル、母子関係と家族の発達	佐藤
	2	セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ ライツ、母性看護における生命倫理	佐藤
	3	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷、母性看護に関連する関係法規	佐藤
	4	母性看護の対象理解①：思春期女性の心身の特徴と健康問題 (第二性徴・女性ホルモン・性感染症等)	青野
	5	母性看護の対象理解②：性成熟期女性の心身の特徴と健康問題 (子宮内膜症・子宮筋腫・子宮頸がん) ミニテスト①	青野
	6	母性看護の対象理解③：更年期女性の心身の特徴と健康問題 (卵巣嚢腫・子宮体癌・卵巣がん等)	佐藤
	7	母性看護の対象理解④：不妊症・人工妊娠中絶・出生前診断 ミニテスト②	佐藤
	8	ウィメンズヘルスプロモーション、母性看護の現状と課題	佐藤・青野
教 科 書	系統看護学講座 母性看護学 [1] 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 成人看護学 [9] 女性生殖器 医学書院		
参考文献 その他資料	母子保健の主たる統計 令和6年度刊行 公益財団法人 母子衛生研究会参考書は、授業の内容及び学生の要望に応じて、適宜紹介する。		
成績評価方法	ミニテスト（20%）、定期試験での評価（80%）を合計して評価する。		
履 修 条 件	特になし		
備 考	1. 母性看護学は次世代育成に関連し、国家の基盤にも関わる分野です。女性の健康と疾患を紹介し、本講義を通して、その意味を理解し必要な基礎知識を習得してほしい。各授業の単元内容については、事前に予告するのでテキストを読んでおくこと。 2. 女性は自らの健康のセルフチェックにもなります。講義前に基礎体温を計測しておくことをお勧めします。講義の理解がより深まるはずです。 3. 各授業内容については、予習・復習を各々2時間を目途に学びを深めること。 4. ミニテストは学習の定着確認を目的に、予告しながら実施します。 ※疑問・質問・意見はいつでもメールで受け付け、回答致します。積極的に臨んでください。		

授 業 科 目 名	精神看護学概論	科目の位置付け	Ⅲ－7－1－1,2,3,4,5
単 位 数	1単位	時 間 数	15時間
履 修 年 次	1年次 後期	必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	佐藤 浩一郎、金野 明子（全員実務経験あり）	講 義 形 式	講義
授業の概要・目的	人々のこころの健康を保持・増進するための課題を通して、精神看護の役割について理解する。こころの発達と健康について自分の考えを見出す。精神保健医療福祉の歴史の変遷と今日の課題等を通して、精神に障がいのある人の置かれている状況や、精神看護の概念およびこころの健康に対する理解を深める。さらに精神看護とは何かについて自分の考えを身につける。		
授業のキーワード	地域精神保健、こころの健康、精神障がい者の理解、地域精神看護、法と制度		
授業の到達目標	Ⅰ こころの健康について理解できる Ⅱ こころの健康に影響を及ぼす要因について理解できる Ⅲ こころの機能、こころの発達に関する主要な考え方を説明できる Ⅳ 生活の場における精神保健福祉の課題を説明できる Ⅴ 精神医療と看護の歴史の変遷について理解を深めてゆく Ⅵ 精神保健福祉に関わる法律や制度を理解できる		
授 業 計 画	回	内 容	担当教員
	1	精神看護学序論 精神看護とは こころのとらえ方 精神症状・状態像他	佐藤
	2	現代社会とこころの健康 自死・依存・災害・いじめ・不登校・虐待・反社会的行為他	金野
	3	地域包括ケアと多職種連携	金野
	4	精神保健医療の歴史の変遷・法制度についての理解	佐藤
	5	精神看護における基本的人権と倫理的配慮	金野
	6	精神保健医療福祉を巡る法律と制度	佐藤
	7	こころの発達と精神保健（１）構造とはたらき・フロイト理論他	佐藤
	8	こころの発達と精神保健（２） ライフサイクル：発達段階と精神の健康・エリクソン他	佐藤
教 科 書	看護学テキストNiCE 精神看護学Ⅰ こころの健康と地域包括ケア 改訂第3版 南江堂 看護学テキストNiCE 精神看護学Ⅱ 地域・臨床で活かすケア 改訂第3版 南江堂		
参考文献 その他資料	その他 授業の展開に合わせ適宜紹介する 新体系看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論／精神保健 メジカルフレンド社 新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 メジカルフレンド社		
成績評価方法	定期試験（80％）、課題レポート（20％）		
履 修 条 件	特になし		
備 考	授業では『精神看護とは何か』というテーマを基盤に、臨床的な出来事を取り上げながら展開してゆきます。事前に教科書を読み、授業内容を把握し臨んでください（予習2時間程度）。レポート課題や試験等により、精神看護の見方や考え方、感じたことを振り返り再構成してゆきますので、復習の時間も適宜確保してください（復習2時間程度）。 レポート課題や試験での誤解の多い問題等には全体に向けて解説します。各授業終了後の質問や感想等には、個別及び全体に向けて回答しながらフィードバックをします。 目に見えない・つかむこともできない内容や、はじめての専門用語も多くなります。想像力と創造力をフルに活用しながら授業を受けてください。 歴史と今日の課題、さらに世界の動きにも注目してください。文献や参考資料だけでなく、新聞・テレビ・雑誌等からも、精神障がい者とその家族の話題、地域での生活にも関心を持ちましょう。		

授 業 科 目 名	基礎看護学実習 I		科目の位置付け	Ⅲ－9－1－1,2,3,4,5
単 位 数	1 単位		時 間 数	40時間
履 修 年 次	1 年次 前期		必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	菊地 真、小野 八千代、熊田 真紀子、 坂本 智恵子、佐藤 大介（全員実務経験あり）		講 義 形 式	実習
臨 地 実 習 概 要	看護と東洋医学が連携し、地域貢献を果たしていくために、医療に携わる者として東洋医学についての知見を拡げることがをねらいとしている。そこで、仙台赤門短期大学と連携している仙台赤門医療専門学校で東洋医学を体感し、今後の看護との連携について考察する。看護師の活動場所は、多岐にわたり病院以外に広がっている。病院以外での看護活動の場に出向いての見学実習を通して、看護師が地域に根差して看護活動を行っている場面や、看護活動の実際について学ぶ。			
臨 地 実 習 的 目 的	東洋医学を体感し、東洋医学に興味・関心を持ち、看護と東洋医学の連携について考察することができる。 多様な場で看護師が看護活動を行っていることを理解し、看護職としての将来の自分の姿を考察することができる。			
臨 地 実 習 の キ ー ワ ー ド	東洋医学、体験実習、看護専門職、看護の探求			
臨 地 実 習 の 到 達 目 標	Ⅰ 東洋医学を体感し、東洋医学への興味・関心を高められる。 Ⅱ 看護と東洋医学の連携について考察できる。 Ⅲ 多様な場での看護師の看護活動について理解できる。 Ⅳ 看護職としての将来の自分の姿を描くことができる。			
実 習 期 間	2025年7月7日（月）～7月11日（金）			
実 習 施 設	仙台赤門医療専門学校（青葉山校舎、国分町校舎） 社会福祉法人陽光福祉会 仙台エコー医療療養センター 社会福祉法人ノテ福祉会 特別養護老人ホーム ノテとみざわの里 医療法人イムスグループ 介護老人保健施設 青葉ロイヤルケアセンター			
臨 地 実 習 方 法	仙台赤門医療専門学校（5 日間のうち 2 日間） 介護施設（5 日間のうち 2 日間）			
臨 地 実 習 計 画	回	内 容		
	1	臨地実習		
	2	臨地実習		
	3	臨地実習		
	4	臨地実習		
	5	学内実習 合同カンファレンス		
教 科 書	系統看護学講座 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院			
参考文献 その他資料	基礎看護学テキスト EBN志向の看護実践 南江堂 基礎看護学実習Ⅰ実習要項、実習共通要項			

成績評価方法	I 評価対象 事前学習、実習中の行動・態度、提出された記録物など、本実習における全てのプロセスを対象とする。 II 評価方法 上記の評価対象を実習評価表に基づき評価する。100点満点とする評価項目の60点以上を合格とする。
履 修 条 件	特になし
備 考	原則として、実習オリエンテーション、臨地実習、学内実習の全ての出席をもって、実習目的・目標が達成できるように構成している。 実習前には、実習施設等の概要を確認し、施設に関連した学習が必要となる。 また、実習期間中にも自己学習や実習記録の記載など日々学習することが多くある。実習目的・目標達成のために計画的な学習と健康管理を行うことが必須である。

授 業 科 目 名	基礎看護学実習Ⅱ		科目の位置付け	Ⅲ－9－1－1,2,3,4
単 位 数	1 単位		時 間 数	40時間
履 修 年 次	1 年次 前期		必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	小野 八千代、菊地 真、熊田 真紀子、 坂本 智恵子、佐藤 大介（全員実務経験あり）		講 義 形 式	実習
臨 地 実 習 概	それぞれ地域の医療機関における看護の見学実習をとおして、さまざまな健康状態にある地域の人々を対象にした看護の広がり と 多様性から具体的に看護とはなにかを学ぶ。看護学初学者の学生が初めて看護師側の視点から病院の機能や構造、看護専門職者が実践する看護を見学し、健康障害をきたしている人を全人的に捉えることや健康障害をきたしている人の療養環境を理解する。 この実習体験から、実習目標に沿って自ら考えながら臨むことによって看護学に対する興味関心を高め、看護職の魅力を身近に実感でき、看護を探究する姿勢を持つ機会とする。			
臨 地 実 習 的	療養環境を理解し、看護の対象となる様々な人々と看護専門職との関わりを通して、看護学に対する関心と意欲が高まる。			
臨 地 実 習 の キ ー ワ ー ド	病院の機能・構造、看護の対象、療養環境、看護専門職、看護学の探究			
臨 地 実 習 の 到 達 目 標	Ⅰ 看護の対象者にとっての必要な療養環境を理解できる。 Ⅱ 健康障害をきたしている人を、身体的、心理・精神的、社会的な側面から捉え、言語化することができる。 Ⅲ 看護専門職者としての役割や責務を理解することができる。 Ⅳ 実習を通して、自己の新たな発見の実感を得ながら、看護を探究する姿勢を持つことができる。			
実 習 期 間	2025年7月14日（月）～7月18日（金）			
実 習 施 設	総合南東北病院、登米市立登米市民病院、宮城厚生協会長町病院、みやぎ県南中核病院			
臨 地 実 習 方	Ⅰ 実習施設および実習病棟の概要についてオリエンテーションにて説明をうける。その後見学をする。 Ⅱ 看護実践に関しては教員や臨床指導者の指導監督のもとで安全安楽を確保しながら実施する。 Ⅲ 実習で学んだことを考察し、看護とはなにかについて探究する。			
臨 地 実 習 計 画	回	内 容		
	1	臨地実習		
	2	臨地実習		
	3	臨地実習		
	4	臨地実習		
	5	学内実習：合同カンファレンス、基礎看護実習Ⅱまとめ		
教 科 書	系統看護学講座 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院			
参考文献 その他資料	基礎看護学実習Ⅱ実習要項、実習共通要項 その他適宜案内する。			

成績評価方法	I 評価対象 事前学習、実習中の行動・態度、看護技術、提出された記録物など、本実習における全てのプロセスを対象とする。 II 評価方法 上記の評価対象を実習評価表に基づき評価する。 100点満点とする評価項目の60点以上を合格とする。
履修条件	「基礎看護学実習Ⅰ」を⁴/5以上出席していること。 「看護学概論」、「看護技術論Ⅰ」をそれぞれ²/3以上出席していること。
備考	原則として、実習オリエンテーション、臨地実習、学内実習の全ての出席をもって、実習目的・目標達成できるように構成している。 実習前には、実習病院および実習病棟の概要を確認し、実習病棟に関連した学習が必要となる。また、実習期間中にも自己学習や実習記録の記載など日々学習することが多くあるため、計画的な学習と健康管理を行うこと。 実習では目的をもった学習態度はもちろん、服装やマナーなど社会規範に基づいた行動が求められる。事前に実習要項を熟読すること。

授 業 科 目 名	基礎看護学実習Ⅲ		科目の位置付け	Ⅲ－9－1－1,2,3,4
単 位 数	2単位		時 間 数	80時間
履 修 年 次	1年次 後期		必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	菊地 真、小野 八千代、熊田 真紀子、 坂本 智恵子、佐藤 大介（全員実務経験あり）		講 義 形 式	実習
臨 地 実 習 概	看護過程は、アセスメント・看護問題の明確化・計画立案・実施・評価から構成される。対象に個別的で最適な看護を提供するための思考法であり、看護実践方法である。 健康障害をもつ人を対象として、その対象の生活上における看護問題を解決するために、看護過程を展開し、より個性のある看護を学習する。 また、対象となる人とその人にかかわる医療従事者との関係性を構築する中で、自らも医療職者としてのあり方を考える実習とする。			
臨 地 実 習 的 目	健康障害を持ちながら入院している人を受持ち、指導のもと、その人の安全・安楽に注意し、生活の援助を中心に看護を実践する。 受け持った人や看護師、その他の医療従事者と良好な関係を築き、より科学的で個性のある看護が実践できるように努める。 看護過程の展開を経験し、日常生活にかかわる看護を実践する。			
臨 地 実 習 の キーワード	看護過程、基本的欲求、アセスメント、看護計画、実施、評価			
臨 地 実 習 の 到達目標	Ⅰ 受け持ち患者・医療関係者とのコミュニケーションの重要性を説明できる。 Ⅱ 対象の日常生活にかかわる看護を実践し、評価できる。 Ⅲ 実践した看護について文章化できる。			
実 習 期 間	2026年1月12日（月）～1月23日（金） 1月12日は祝日			
実 習 施 設	公立藤田総合病院、総合南東北病院、登米市立登米市民病院、 宮城厚生協会長町病院、東北労災病院、みやぎ県南中核病院、東北大学病院			
臨 地 実 習 方 法	健康障害を持つ患者を受け持ち、看護過程の5段階を展開する。 看護実践に関しては教員や臨床指導者の指導監督のもとで安全・安楽を確保しながら実施する。 実習施設および実習病棟の概要については、オリエンテーション時に説明をする。また、受持ち患者の病状説明については、臨地実習1日目に臨床指導者から説明される。			
臨 地 実 習 画 計	回	内 容		
	1	事前学習		
	2	臨地実習：病院・病棟オリエンテーション（受持ち患者の病状説明）		
	3	臨地実習		
	4	臨地実習		
	5	臨地実習		
	6	臨地実習		
	7	臨地実習		
	8	臨地実習		
	9	臨地実習		
	10	学内実習：合同カンファレンス 基礎看護学実習Ⅲのまとめ		

教科書	系統看護学講座 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
参考文献 その他資料	基礎看護学テキスト EBN志向の看護実践 南江堂 基礎看護学実習Ⅲ実習要項、実習共通要項、看護過程論で配布された資料などを参考にしてください。オリエンテーション時、関連する文献や資料を提示します。
成績評価方法	I 評価対象 事前学習、実習中の行動・態度、受持ち患者に対する看護技術、提出された記録物など、本実習における全てのプロセスを対象とする。 II 評価方法 上記の評価対象を実習評価表に基づき評価する。 100点満点とする評価項目の60点以上を合格とする。
履修条件	「看護学概論」、「看護技術論Ⅰ」、「基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得していること。 実習期間までの「看護技術論Ⅱ」「フィジカルアセスメント」「看護過程論」の出席が2/3以上であり、それらの科目の単位修得が見込めること。
備考	原則として、実習オリエンテーション、臨地実習、学内実習の全ての出席をもって実習目的・目標が達成できるように構成している。 実習前には、実習病院および実習病棟の概要を確認し、実習病棟に関連した学習が必要となる。また、実習期間中にも自己学習や実習記録の記載など、日々学習することが多くあるため、計画的な学習と健康管理を行うこと。 中間・最終面接では、自己評価と教員による評価を基に実習目標到達状況について話し合い、医療者・看護職者としての自己のあり方・課題を明確にすること。

専任教員・オフィスアワー

専門領域	教員氏名	研究室	連絡先	前 期	後 期
学長 医学一般	笹 野 公 伸	学長室	hironobu-sasano	事務部窓口まで	
学科長 母性看護学	佐藤 喜根子	500	kineko-sato	在室時はいつでも対応	
基礎看護学	菊 地 真	514	makoto-kikuchi		
	小野 八千代	503	yachiyo-ono		
	熊田 真紀子	504	makiko-kumata		
	坂本 智恵子	541	chieko-sakamoto		
	佐藤 大介	531	daisuke-sato		
地域・在宅看護論	平尾 由美子	501	yumiko-hirao	金 5 限目	
	鈴 木 博 美	541	hiromi-suzuki	在室時はいつでも対応	
	木 島 祐 子	531	yuko-kishima		
成人看護学	安 倍 藤 子	507	fujiko-abe		
	岩 渕 起 江	508	yukie-iwabuchi		
	越 川 暢 恵	523	nobue-koshikawa	在室時はいつでも対応	
高齢者看護学	森 岡 薫	505	kaoru-morioka		
	佐 藤 文 枝	531	fumie-sato		
	島 倉 蓉 子	531	yoko-shimakura		
小児看護学	井上 由紀子	502	yukiko-inoue	木 5 限目	
母性看護学	青 野 都	541	miyako-aono	在室時はいつでも対応	
精神看護学	佐藤 浩一郎	506	koichiro-sato		
	金 野 明 子	510	akiko-konno		
	寺田 みゆり	523	miyuri-terada		

* 急な業務・学科等で不在のこともありますので、事前にメール等にて連絡してください。

* メール送信の場合、連絡先の後に、@sendai-akamon.ac.jp をつけてください。

* オフィスアワーの活用方法に関しては、学生便覧 P.34 を確認してください。

非常勤講師一覧（１年次担当）

	科 目 名	講 師 名	所属先・役職
基 礎 分 野	数理学の基礎 情報科学	樋口 秀男	東北大学 未来科学技術共同研究センター 特任教授
	日本語表現法	蛸崎 暁子	国語専門塾 K's セミナー 代表
	栄養学	菅原 詩緒理	仙台白百合女子大学 人間学部 教授
	社会福祉学	横山 英史	
	人間発達と家族	野崎 義和	宮城教育大学 准教授
	健康とスポーツ	星 由華里	
専 門 基 礎 分 野	人体の構造と機能Ⅰ	笹野 泰之	東北大学大学院 歯学研究科 教授
		柴原 茂樹	(前)東北大学大学院 医学系研究科 教授
	人体の構造と機能Ⅱ	仲村 春和	(前)東北大学 加齢医学研究所 教授
		笹野 泰之	東北大学大学院 歯学研究科 教授
		中井 淳一	東北大学大学院 歯学研究科 教授
	人体の構造と機能Ⅱ 論理学の基礎	安藤 恵子	東北大学大学院 歯学研究科 准教授
	生化学	中川 直人	有限会社ファーマシーすず
	微生物・免疫学	藤村 茂	東北医科薬科大学 大学院薬学研究科 教授
	薬理学	柴原 茂樹	(前)東北大学大学院 医学系研究科 教授
専 門 分 野	フィジカルアセスメント	安彦 武	東北大学病院 副看護師長
		工藤 淳	東北大学病院 副看護師長
		山口 真一	東北大学病院 看護師

学籍番号

氏 名

シラバス 2025 1 年生

2025年4月1日 発行

編集・発行 学校法人 赤門宏志学院
 仙台赤門短期大学 看護学科
所在地 〒980-0845
 仙台市青葉区荒巻字青葉6番 41
 TEL 022-395-7750(代表)



学校法人 赤門宏志学院
仙台赤門短期大学 看護学科